

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科		看護学科		科 目 区 分		専門分野		授業の方法		実 習		
科 目 名		老年看護学実習			必修/選択の別		必修		授業時数(単位数)		90 (2) 時間(単位)	
対 象 学 年		2年次			学期及び曜時限		後期		教室名		各施設・学内	
担 当 教 員		石田 文香 中尾 靖		実務経験と その関連資格		総合病院で看護師として勤務						
《授業科目における学習内容》												
老年期の健康障害をもった患者の看護を実践できる能力を養う。												
《成績評価の方法と基準》 1) 実習評価は実習日数の3分の2以上を出席したものを対象とする。 2) 評価は実習の全ての経過を対象とし、評価表に基づいて行う。 3) 実習目標の達成状況ならびに以下のことを踏まえ総合的に評価を行う。 ①実習出席状況 ②事前・追加学習 ③実習記録 ④実習態度												
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 根拠と事故防止からみた老年看護技術 医学書院												
《授業外における学習方法》 実習前は事前課題に取り組み、実習中は自己学習をしてください。受け持ち患者の看護援助について対象者が老年期であることを踏まえ、これまでの授業資料などを参考にしながら自己学習を進めてください。												
《履修に当たっての留意点》 実習要項を熟読し実習準備を十分にしておいて下さい。事前学習や実習中の自己学習内容も評価に含まれます。健康管理・時間管理・物品管理に努めてください。毎日の気づきを意識してください。詳細は実習要項に記載。												
授業の方法			内 容					使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容		
1 日 目	実 習 形 式	授業を通じての到達目標	・老年期の特徴を理解し、高齢者を生活者として捉える視点と老年看護学実習で必要な看護過程の進め方を理解することができる。					事前学習・テキスト・参考書・授業資料	事前学習に加え、追加学習を行う。 わからなかったこと・明日の実習に関する内容を学習しておく。			
		各コマにおける授業予定	学内実習 ・実習担当教員の指導のもと、事例検討、情報のアセスメント、危険防止確認シート、看護問題と看護計画の作成を行う。 ・実習に必要な看護技術の演習を行う。									
2 日 目	実 習 形 式	授業を通じての到達目標	・病棟の日課、週間予定などの情報を収集することができる。 ・受け持ち患者とのコミュニケーションや観察、記録などから情報を収集することができる。					病院資料(事前学習)・テキスト・参考書・授業資料	わからなかったこと・明日の実習に関する内容を学習しておく。			
		各コマにおける授業予定	・病院・病棟オリエンテーション。 ・受け持ち患者の決定、挨拶、受け持ち患者へ説明と同意、情報収集。 ・受け持ち患者とのコミュニケーション。									
3～ 5日 目	実 習 形 式	授業を通じての到達目標	・患者と意図的なコミュニケーションを図り必要な情報を収集することができる。 ・病態と照らし合わせての知識、技術を活用する。 ・「危険防止確認シート」を用い高齢者の生活行動に潜んでいるリスクと対処方法について述べることができる。					テキスト・参考書・授業資料	わからなかったこと・明日の実習に関する内容を学習しておく。			
		各コマにおける授業予定	・受け持ち患者との効果的なコミュニケーション。 ・情報収集。 ・環境整備、バイタルサイン測定、日常生活援助の実施。 ・「危険防止シート」発表(4～5日目)。									
6～ 8日 目	実 習 形 式	授業を通じての到達目標	・患者の日常生活行動を観察し、日常生活行動の援助についてその必要性を考え実施できる。 ・病態と照らし合わせての知識、技術を活用することができる。 ・自己の実習を評価し後半に向けての課題を明確にすることができる。					テキスト・参考書・授業資料	わからなかったこと・明日の実習に関する内容を学習しておく。			
		各コマにおける授業予定	・中間カンファレンス(6日目)前半の振り返りと後半の課題 ・中間評価(6日目)自己の実習を評価し後半に向けての課題を明確にすることができる。 ・カンファレンス(7～8日目)看護問題と看護計画発表。 ・受け持ち患者・事例患者への日常生活援助を実習計画に基づき実施。									
9～ 11日 目	実 習 形 式	授業を通じての到達目標	・患者の日常生活行動を観察し、日常生活援助について必要性を考え実施できる。 ・病態と照らし合わせ、知識、技術を活用することができる。					テキスト・参考書・授業資料	わからなかったこと・明日の実習に関する内容を学習しておく。			
		各コマにおける授業予定	・受け持ち患者の看護計画修正。 ・カンファレンス(9～11日目)「対象に必要な保健・医療・福祉の活用や専門職者との連携について」をテーマとして話し合う。									
12 日 目	実 習 形 式	授業を通じての到達目標	・疾患や障害を持ちながらもその人らしく生活を営むことが出来るような支援について具体的に考えることができる。 ・老年期の看護について実習から得た学びをまとめ発表することができる。					テキスト・参考書・授業資料	実習最終日に向けて記録の整理・提出の順番など要項を確認しながら不備のないように準備しておく。			
		各コマにおける授業予定	午前中:看護援助実施、評価。 午後:記録を完成させ整理する・評価表記載・最終カンファレンス。									